

## 三つの寺院群と茶屋街 ～歩く・観る・祈る～ （金沢市）

金沢には、城下を取り囲んだ三つの寺院群に150を超える寺社があり、坂路や迷路のような小路を巡れば、静寂の中に四季折々の変化に富んだ散策を楽しむことができます。

また、寺院群に近接した三つの茶屋街のキムスコと呼ばれる出格子のまちなみを歩けば、金沢芸妓の三味線や鼓の音色が聞こえてきます。三つの寺院群を歩き観て、祈りを捧げ、茶屋街で伝統芸能や食を楽しめば、きっと訪れた人の心に安らぎを与える旅となるでしょう。

（卯辰山麓重要伝統的建造物群、寺町台重要伝統的建造物群、東山ひがし重要伝統的建造物群、主計町重要伝統的建造物群、にし茶屋街など）



卯辰山麓重要伝統的建造物群  
保存地区（全性寺）



寺町台重要伝統的建造物群保存地区



東山ひがし重要伝統的建造物群  
保存地区



主計町重要伝統的建造物群保存地区

## 七尾城が語る「能登の戦国都市物語」 (七尾市)

七尾城は、戦国武将として著名な上杉謙信も絶賛した国内屈指の山城であり、苔むした石垣や本丸からの壮大な眺望から七尾城をめぐる兵どもが夢の跡を体感出来る能登の代表的な旧跡である。

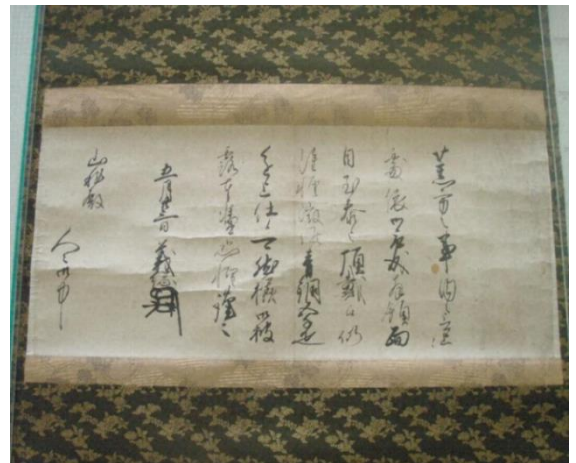
七尾城の麓には、湊まで連なる「千門万戸」と謳われた賑やかな城下町が連動し、一帯は能登国の政治・経済・文化の中心として繁栄し、京の文化人との文芸活動から芽生えた畠山文化が開化した。狩野派と肩を並べた絵師長谷川等伯は、この頃七尾で生まれ、畠山文化により素養を磨いている。

現在も七尾市は能登の中心としての役割を担っているが、その礎が七尾城と畠山文化であると考えられている。こうした、七尾の礎に触れる旅に出かけよう。

(七尾城跡、畠山義総書状、懐古館、愛宕権現図 など)



七尾城跡



畠山義総書状



懐古館



愛宕権現図

## 平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち・小松（小松市）

世界の演劇の中で最多の上演回数を誇ると言われている歌舞伎「勸進帳」は、加賀国「安宅の関」を舞台とした「智・仁・勇」の物語です。

小松は数多くの源平物語の舞台となり、安宅の関跡をはじめ、加賀国府跡、朝廷と争った白山新興勢力の宗教遺跡群、伝説の白拍子「仏御前」にまつわる史跡、木曾義仲との悲劇を生んだ斉藤別当実盛の兜など、源平にまつわる史跡が数多く残ります。

室町時代には謡曲「安宅」「仏原」「実盛」を生み出し、地域の人たちが芸能に励む土壌となりました。そして江戸中期には、様々な芸能文化を受け入れてきた町衆たちの心意気が、曳山子供歌舞伎誕生のエネルギーとなり、お旅まつりに取り入れられ、現在まで子供歌舞伎は続けられています。

平安の世の歴史物語がつむぎ出した伝統芸能を受け継ぐDNAは、小松の人々によって脈々と受け継がれ、伝統芸能と歴史が息づく「歌舞伎のまち」を創り出しています。

（安宅の関跡、那谷寺本堂、子供歌舞伎「勸進帳」、多太神社所蔵の兜、袖、臈当など）



安宅の関跡



那谷寺本堂



子供歌舞伎「勸進帳」



多太神社所蔵の兜

## 平家の末裔 時国氏の繁栄 (輪島市)

平氏政権といわれ権勢を振るった平氏一門。平清盛の側近として活躍した権大納言平時忠も凋落とともに能登へ配流。

しかし、その子孫はやがて豪農として、地域の一大領主として繁栄する。能登平氏の末裔「上時国家」「時国家」の両家は平家伝説の語り部として今も活躍している。

(上時国家住宅及び庭園、時国家住宅及び庭園、曾々木海岸 など)



上時国家住宅



上時国氏庭園



時国家住宅



時国氏庭園

## 「漂着神（よりがみ）」の聖地 ～日本海交流が伝える祈りと祭りの文化財めぐり～

(羽咋市、志賀町、宝達志水町)

日本海に洗われる口能登の沿岸地域は、先進の技術と共に多様な信仰文化も受け入れた。

出雲からの来臨と伝える気多大社は、はるか大陸とも結んだ北陸道沿岸地域の総鎮守であり、寺家遺跡はその古代神祇の発生を伝える。各地に点在する漂着伝承、タブノキの巨樹とその信仰は、異世界から寄り来た「漂着神(ヨリガミ)」たちの足あとである。この地の神々を訪ねれば、日本海交流と生きた古代能登人の祈りと祭りの原風景を見ることができる。

(高爪神社のタブノキ、気多大社、妙成寺、吉崎・次場遺跡、唐戸山神事相撲、鶉祭り など)



高爪神社のタブノキ



気多大社



妙成寺



吉崎・次場遺跡